（別紙３）

# 公表　事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○事業所名 | | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年　2月　1日 | | ～ | 令和７年　2月　21日 |
| ○保護者評価有効回答数 | （対象者数） | 23 | （回答者数） | 13 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和７年　2月　1日 | | ～ | 令和7年　2月　14日 |
| ○従業者評価有効回答数 | （対象者数） | 4 | （回答者数） | 4 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年　3月　24日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 子どものことを十分理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援。 | 当事業所は、作業療法士、看護師、保育士、精神保健福祉士が在籍。子どもの特性に合わせた支援やその時々の課題に合わせ、専門職員が個別支援の内容を考え支援している。 | それぞれが子どもの「今」の課題に応じて、自己研鑽に努め、それをお互い共有し、高め合いながら支援していく。また、外部研修等に積極的に参加し、支援のニーズに寄り添い、職員自身が成長していく取り組みを目指す。 |
| 2 | 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されている。 | モニタリングを丁寧に行うこと。また、個別支援計画では支援内容を子どもに必要なこと、支援者にできること等を精査し、具体的に記載している。 | より保護者に分かりやすい内容の記載。また、目標達成を目指し、計画→実行→評価→改善（PDCAサイクル）を日々の支援の中で行って行くことを徹底していく。 |
| 3 | 保護者の子育てへの共感的支援。 | 家族の困りごと、子どもの成長に合わせた新しい課題に対しては迅速に対応できるよう心掛けている。保護者に寄り添った支援、子どもの成長にとって有益な支援をと考えている。 | 今後はさらに、家族の対応力向上、また、子育てがより楽しくなるようきっかけ作りに力を入れていく。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 父母の会、保護者会、保護者同士の交流。<br>きょうだい向けのイベント、きょうだい同士交流、きょうだへの支援。 | 交流日の設定。子どもの療育をしながら、保護者交流の開催がなかなか難しく、計画できずにいた。また、お仕事をされている保護者が多いので日程調整も悩むところであった。<br>きょうだいへの支援、イベントについても開催日の難しさがある。 | 父母の会、保護者会については保護者の忙しさも考慮すると難しそうではあるが、保護者交流については、平日午前中で計画してみたい。また、「リトリトカフェ」と称し、保護者が気軽に来れるよう、ワークショップ等を開き、気軽に来れるよう計画したい。 |
| 2 | 家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の実施。 | 家族向けの講演会、研修会の開催ができなかった。 | 職員が受けて良かった講演会を保護者向けにしていただけないか？と考案中。また、講演会の情報提供を行っていきたい。 |
| 3 | こどもにわかりやすく構造化された生活空間であるか。<br>事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切か。 | 職員が気付いていないところで、こどもたちが不便さや困り感を抱えているかもしれない。 | こどもの視点に立ち、わかりやすく過ごしやすい空間づくりを目指したい。職員と共有し役割分担し、改善していくよう取り組んでいく。 |